

～輝きの子育て～

「挨拶」の大切さ

新型コロナ感染の第7波も少しずつ治まる方向にあります。

マスク生活では、顔全体が見えず、相手がすぐにわからず、つい挨拶をせず失礼することも多くなったのではと思います。挨拶は本来、顔を向け、笑顔でハッキリと言うものだと思いますが、マスク生活ではなかなか困難で、このところ寂しい限りです。

若い頃、サラリーマンの私は、何となく好きになれない同僚がいました。一緒に仕事をするチームの人でしたので、このままではいけないと思っていました。こちらが、いやだと思っていれば相手にも通じ、同じように思っていたと思います。そして、毎朝、丁寧に「あはようございます」と挨拶を始めました。最初は、横を向いて、ろくに返事もしてくれませんでした。一ヶ月も続けると「おはよう」と返事が返って来ました。少しずつ、心が通じるようになり、チームの仕事も順調に進めることが出来ました。

挨拶の重要性を痛感したものです。

ある友人の話ですが、彼は、毎日会社へ行く途中、コンビニで缶コーヒーを買うのが慣例だったそうです。毎日のことなら自宅に多量に買って持っていけばよいのでは？と問いかけましたら、コンビニの店員さんが、いつも明るく、元気よく「おはようございます！」「行ってらっしゃい！」といってくれる、それが元気をもらえ、楽しく出社出来るとのことでした。「あいさつ」の大切さを強く感じた話です。

教育者である森 信三先生（1896年～1992年）は、将来、学校の先生になる人への話の中で家庭における、躰の三原則を話された部分があります。

家庭における躰の三原則

- 1 祖父母や両親に朝の挨拶の出来る子
- 2 名前を呼ばれたら「ハイ」と返事のできる子
- 3 立ったら、椅子を机の下に入れ、脱いだ履物を揃える子

昔、保育園で使った「五つの心」ということばがあります。何回か、この「輝きの子育て」に登場しました。園児と一緒に音読した時もあります。

五つの心

- 「ハイ」という素直な心
- 「ありがとう」という感謝の心
- 「すみません」という反省の心
- 「どうぞ」という譲歩の心
- 「私がします」という奉仕の心

今月は、当たり前の挨拶が、人間関係を整え、気持ちを明るくすることを書きました。

積極的に、意識的に、心から、大きい声で挨拶をしましょう。

周りが、今以上に明るくなること、必定です。

ご家庭でも「五つの心」を音読していただけたら幸いです。